

道徳通信

～ あの日 生まれた命 ～

愛西市立八開中学校

道徳通信

令和3年12月15日

黄ブロック職員



東日本大震災の被災者への支援プロジェクトを巡る実話を通して、家族の大切さ、生命の尊さについて考えました。

2011年3月11日、真奈ちゃん（仮名）は誕生しますが、その数時間後に激しい地震に襲われました。震災によって祖母を失ったお母さんは、子供の誕生を素直に喜ぶ気持ちになれない複雑な思いを抱え続けました。そんな中、1歳の誕生日に、北海道の“希望の『君の椅子』”プロジェクトから、「生まれてくれてありがとう。君の居場所はここにあるよ。」という思いが込められた木製の手作りの椅子が贈られました。どんな状況でも、新しい命の誕生は喜ばしいもの。お母さんは、子供の誕生を素直に喜んでいいのだと思えるようになりました。

●● ●● さん

プロジェクトの人たちはすごいと思った。2011年3月11日に生まれたからといって喜んでいけないわけではない。自分の誕生は、素直に喜んでいいんだなと思った。

●● ●● さん

「木の椅子」は、ここに居場所があるということで、「鉄」は成長していかないけれど、「木」は成長していくから、木のように成長してほしいという願いを込めて贈ったのかなーと思いました。

●● ●● さん

お母さんに感謝しようと思った。

●● ●● さん

他の人たちが震災で大切な人を失った人たちにとって3月11日は最悪な日だと思うけれど、だからといってこの日が誕生日の人に対してかわいそうというのは違うかなと思った。自分もプロジェクトの人のように普段目を向けないところに目を向けられるようになりたい。

●● ●● さん

失われた命も、生まれた命も思いやることはむずかしいけど、できたらいいなと思った。

●● ●● さん

どんな日に生まれたって、生まれない方がいい人はいないし、その日に誰かが亡くなっているにも生まれたことに感謝していくといいと思った。

●● ●● さん

自分は、東日本大震災で亡くなってしまった人の分も命を大切にしようと思った。

●● ●● さん

どんな日に生まれたとしても大切なことには変わらないんだと思いました。もっと自分の命や家族、友達の命を大切にしていきたいと思いました。

●● ●● さん

命を大切にすることは、みんなの心を傷つけないことだと思った。

●● ●● さん

命は、自分の居場所はあるということ、自分は誰かにとって大切なものなんだと知るから大切にできるのだと思った。

「生まれてくれて ありがとう」

